



文化博物館だより 第252号

2009年1月13日

みなさん、こんにちは。メタボな上に、お正月に太った・・・なんて方もいらっしゃるのでは？寒いですが、動いて、解消ですよ！

● ギャラリートーク

開催中の特別展『日本抽象のパイオニア 長谷川三郎展』のギャラリートークが、1月10日（土）にありました。

今回は、長谷川三郎が絵を書き始めた学生時代から、代表作である「蝶の軌跡」に至るまでの油彩、素描、立体作品、写真、コラージュなどといった多岐にわたる作品についての解説が行われました。



作品「鶏」の前で



コラージュ作品を囲んでの解説

作品の他にも、長谷川三郎自身の生身の人間を感じられる資料が紹介されました。三郎のパスポートにずっと挟んでいた父親からの手紙。跡継ぎとして期待されながらも絵を志した三郎ですが、父親の言いつけを心に置いていたことが感じられます。その他には、妻・ヴィオラが三郎のスケッチブックに描いた三郎の絵。その隅に「ANATA」と書かれています。

本展2回目のギャラリートークは、31日（土）にも行われます。今回、参加出来なかったという方は、ぜひ、お越し下さい。また、17日（土）に開催される特別講演会の参加申込みも、まだ受け付けていますので、こちらも、どしどしご参加下さいね。講師は、兵庫県立美術館学芸員の河崎晃一さんです。

ギャラリートーク終了直後、会場でお客様に話しかけられました。「「博物館だより」を読んでいます」と仰られ、感想を聞かせて下さいました。とても嬉しく、「もっと良いものを作りたいなあ」という気持ちになります。ありがとうございます。配信やネット上でご覧のみなさんも、ぜひ、ご感想などお寄せ下さいね。